

## 平成23年度県立高等学校入学者選抜の結果について

平成23年度県立高等学校入学者選抜は、全日制課程の推薦入学面接が2月9日（水）、学力検査が3月7日（月）、また、定時制課程のフレックス特別選抜が3月7日（月）、学力検査が3月17日（木）に実施された。これらの受検・合格状況は下の表に示したとおりである。

### 1 生徒募集定員の総枠について

平成23年3月の県内中学校卒業見込者数（前年比808人の減）を考慮し、全日制課程の定員を12,555人（前年比560人の減、延べ14学級の減）とした。

### 2 平成23年度入学者選抜について

#### (1) 推薦入学

推薦入学については、全日制課程の高校57校119系・科で実施され、実施しない高校は2校2科であった。推薦入学においては学力検査を行わず面接をもってこれに代えるものとしているが、40校90系・科では作文を課しており、16校24科では、小論文を課している。

#### (2) 傾斜配点、面接等

昭和61年度から学力検査の評価方法の弾力化を図り、教科内傾斜配点を実施して

いる。実施については、各学校・学科の特色及び入学後の生徒の進路等を配慮して決めるものであるが、今年度の実施校は3校3科であった。教科別にみると、国数英の3教科を実施したのが2校2科、国数英社の4教科を実施したのが1校1科であった。また、小山高校と黒磯南高校の各専門学科については、昨年度と同様に、特定の教科の得点を1.5倍する教科間の傾斜配点を実施した。

学力検査受検者に対する面接は平成元年度から導入しているが、今年度は26校84系・科で実施した。

海外帰国者・外国人等の受検に関する特別措置については、推薦入学と同時に挙る特別選抜検査で35名が合格した。

定時制課程において、満20歳以上の志願者について学力検査を行わず、作文をもってこれに代えることができる制度では、11名が合格した。

以下、各教科ごとの学力検査問題（全日制）について、出題の方針及び結果の概要について述べる。なお、各問の正答率は全日制課程10校から1,000名を抽出して調査した結果であり、完全正答者についての割合である。

<表> 学力検査 受検・合格状況の推移

|      | 平成23年度 |        |         |      | 平成22年度 |        |         |      | 平成21年度 |        |         |      |
|------|--------|--------|---------|------|--------|--------|---------|------|--------|--------|---------|------|
|      | 全日制    |        | 定時制     |      | 全日制    |        | 定時制     |      | 全日制    |        | 定時制     |      |
|      | 推薦入学   | 学力検査   | フレックス特別 | 学力検査 | 推薦入学   | 学力検査   | フレックス特別 | 学力検査 | 推薦入学   | 学力検査   | フレックス特別 | 学力検査 |
| 募集定員 | 12,555 |        | 640     |      | 13,115 |        | 640     |      | 12,955 |        | 640     |      |
| 受検人員 | 2,736  | 12,018 | 214     | 434  | 3,030  | 12,945 | 172     | 410  | 2,877  | 12,778 | 232     | 479  |
| 受検倍率 | 0.96   | 1.22   | 1.78    | 0.83 | 1.00   | 1.25   | 1.43    | 0.79 | 0.95   | 1.24   | 1.93    | 0.92 |
| 合格人員 | 2,490  | 9,756  | 120     | 397  | 2,633  | 10,290 | 120     | 396  | 2,616  | 10,287 | 119     | 438  |
| 合格倍率 | 1.10   | 1.23   | 1.78    | 1.09 | 1.15   | 1.26   | 1.43    | 1.04 | 1.10   | 1.24   | 1.95    | 1.09 |

※ 受検倍率＝受検人員÷定員， 合格倍率＝受検人員÷合格人員

## 出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校国語科の指導内容に即し、基本的な言語事項に関する能力、表現する能力、理解する能力を総合的に評価できるようにした。
- 2 生徒の多様な学力の実態に応じ、言語事項についての知識とその理解の程度を評価できるようにした。
- 3 生徒の学習や日常生活に関連があり、内容に偏りのない平易な文章を読んで、表現者の立場や考え方をとらえ、あるいは作品の描写や登場人物の心情などを読み取るなどして自分の考えをまとめて、表現する能力を評価できるようにした。
- 4 古典については、親しみやすい内容の古典を素材にして、基本的な読む能力を評価できるようにした。
- 5 作文については、テーマについての自分の考えを、理由を明確にして、適切に書く能力を評価できるようにした。

## 結果の概要

**1** は、言語事項に関する知識と理解度、言語感覚の確かさや言語運用能力をみるものである。言語事項の単なる知識にとどまらず、言葉の意味やきまりを確認する機会を通して、言語生活の向上に役立ててほしいということをお願いして出題した。

1の漢字の読みの問題は、平均正答率は86.3%、2の漢字の書きの平均正答率は55.7%であった。漢字の読みでは、(1)快晴、(4)挑む、が正答率9割を超えたが、(5)措置は68.6%であった。書きでは(1)幹、(2)伝達、が正答率6割を超えたが、(3)朗らか、(5)候補が5割に満たなかった。日常生活で使用できる語彙を広げるためにも、漢字学習の重要性を確認することが必要である。

4多義語、6熟語の構成の問題ではいずれも高い正答率であり、3の助動詞の用法及び5敬語の問題は約6割の正答率であった。7の俳句の季語についての問題は27.1%と特に低く、昨年7の和歌の句切れの問題と同様、伝統的な言語文化に対する関心を高めていきたい。また、日本語全般に関しても幅広く興味を持って学習に取り組みたい。

**2** は、「伊曾保物語」を素材として出題した。その道に精通した者の助言を得ることの大切さを説いた話である。仮名遣い、文の意味、内容の把握などを問う例年と同様の問題に加えて、動作の主体(主語)を問う問題を設定した。

2の主語の問題が42.8%とやや低かったものの、3の「案のごとく」の内容を記述する問題が52.6%、5の筆者の考えを問う問題が56.6%と、文章全体の内容の理解が要求される設問への正答率は昨年よりも高かった。

主語が省略される古文の特徴を踏まえ、行為や動作の主体をおさえ、話の流れを概括する学習や、登場人物の考えを把握する学習などを継続したい。また、言語文化を継承するという観点からも、古文固有の言葉に注目し、古文特有の話の面白さを味わうなど、多くの古典に親しむ機会をもち、現代に息づ

く古典の価値を理解することが大切である。

**3** は、加藤秀俊「暮しの思想」を素材として出題した。意義ある読書の一提案として、家庭内で書物を交換して読むことが、相手を尊重した相互理解につながると論じている。

1の空欄に入る語句を選択する問題は、正答率が28.3%と低かった。5の段落の特徴を選択する問題は63.6%、6の本文の内容を選択する問題は78.1%の正答率であったが、4の「経験の交換」の意義を記述する設問は完全正答率が8.0%と低かった。前後から文を単に抜き出したり、書き換える程度の解答が目立ったが、答えるべき内容を簡潔な言葉でまとめる表現力が求められている。

説明的な文章は、主張と具体例を区別して読んだり、根拠を抜き出ししたりするなどして、筆者が何を言いたいのか、全体的な要旨を正確に読み取る力を養っていく必要がある。併せて、読み取った内容を自分の言葉でまとめたり、話し合ったりするなどして、他の言語活動との関連を深めたい。

**4** は、山本一力「銀しやり」を素材として出題した。舞台設定が江戸時代であり、受検者の実体験に近いものではないため、場面設定やそれぞれの人物の心情や言動を捉えながら読み進めていくことが要求される。

3の「味見をさせた」新吉の意図についての設問は70.2%、6の本文の特徴を説明したものを選択する設問は77.0%であった。一方、これら選択問題の正答率が高いのに対して、「見栄」という言葉から心情を読み取って記述する2は7.9%であり、また、新吉の気持ちのたかぶりを説明する記述問題の5は15.8%と完全正答率が低かった。いずれの設問でも、単なる文の抜き出しでは説明しきれず、自分の言葉でまとめなければならない。

文学的な文章については、各自の様々な読みの交流を図ることも大切であるが、解釈の妥当性を検証し合うような学習が必要となる。判断の根拠を探して話し合ったり、表現や描写をもとにして意見を述べたりといった学習活動によって、確かな読みにつなげていきたい。

**5** の作文は、「情報化社会と青少年に関する意識調査」結果のグラフを参考にして、「私が今の世の中について考えるとき、影響を受けているもの」というテーマで、自分自身が考えたことを、理由を明確にした上で、適切に書く能力を評価するものである。

グラフに示された情報を参考に、与えられたテーマについて、自分の考えを組み立てることを前提として、意見と理由の記述を求めている。様々な情報の飛び交う現代において、ある事柄について、自分が得た情報をもとに考えることを心がけ、普段の生活の中でも自分の意見を表現する訓練をしておきたい。

また、授業の中では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」との関連において、事実と意見の区別、根拠や理由の整理、効果的な表現などについて確認し、書く過程の学習の充実を図ることで、自ら考え、表現する力の向上を目指したい。

<平23>

国語学力検査結果集計表

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

| 問 |        | 題      | 正答率    | 問      |   | 題                | 正答率 | 問 |                  | 題        | 正答率 |
|---|--------|--------|--------|--------|---|------------------|-----|---|------------------|----------|-----|
| 1 | 1      | (1)    | 98.0 % | 2      | 1 | 88.7 %<br>(88.7) | 4   | 1 | 69.3 %           |          |     |
|   |        | (2)    | 83.6 % |        | 2 | 42.8 %           |     | 2 | 7.9 %<br>(28.5)  |          |     |
|   |        | (3)    | 84.9 % |        | 3 | 52.6 %<br>(67.8) |     | 3 | 70.2 %           |          |     |
|   |        | (4)    | 96.4 % |        | 4 | 66.8 %           |     | 4 | 65.2 %           |          |     |
|   |        | (5)    | 68.6 % |        | 5 | 56.6 %           |     | 5 | 15.8 %<br>(60.0) |          |     |
|   | 2      | (1)    | 66.8 % | 3      | 1 | 28.3 %           |     | 5 |                  | (96.5 %) |     |
|   |        | (2)    | 65.3 % |        | 2 | 44.8 %<br>(63.7) |     |   |                  |          |     |
|   |        | (3)    | 43.1 % |        | 3 | 58.0 %           |     |   |                  |          |     |
|   |        | (4)    | 54.3 % |        | 4 | 8.0 %<br>(54.3)  |     |   |                  |          |     |
|   |        | (5)    | 48.9 % |        | 5 | 63.6 %           |     |   |                  |          |     |
|   | 3      | 63.9 % | 6      | 78.1 % |   |                  |     |   |                  |          |     |
|   | 4      | 95.2 % |        |        |   |                  |     |   |                  |          |     |
|   | 5      | 59.4 % |        |        |   |                  |     |   |                  |          |     |
|   | 6      | 87.8 % |        |        |   |                  |     |   |                  |          |     |
| 7 | 27.1 % |        |        |        |   |                  |     |   |                  |          |     |

※ ( ) 内は部分正答も含めた割合

# 社 会

## 出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえて、地理・歴史・公民の各分野から相互の関連にも留意して出題した。
- 2 基礎的・基本的内容を3分野から取り上げて出題し、社会的事象に関する基礎的理解や思考力、判断力、表現力等をみようとしました。
- 3 3分野の総合問題として「2」を出題し、社会的事象を諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する力をみようとしました。
- 4 各分野ごとに論述問題を出題し、社会的事象に対する見方や考え方と、それを整理し表現する力をみようとしました。
- 5 地図・統計・写真・年表等を正しく読み取る力、それらをもとにして考察し表現する力をみようとしました。

## 出題分野・解答形式別の問題数・配点の内訳

|     | 地理的分野  | 歴史的分野  | 公民的分野  | 合計      |
|-----|--------|--------|--------|---------|
| 選 択 | 8(16)  | 5(10)  | 5(10)  | 18(36)  |
| 記 述 | 4(8)   | 8(16)  | 6(12)  | 18(36)  |
| 論 述 | 3(12)  | 2(8)   | 2(8)   | 7(28)   |
| 組 み | 0(0)   | 0(0)   | 0(0)   | 0(0)    |
| 合 計 | 15(36) | 15(34) | 13(30) | 43(100) |

( ) 内の数字は配点

## 結果の概要

「1」は、広く地理・歴史・公民の各分野についての基礎的・基本的な知識及び理解度をみようとしました。全体的には正答率の高い問題が目立った。

「2」は、明治時代に日光を訪れた外国人の旅行記を素材にして、地理・歴史・公民の各分野にわたる理解度をみた。2では、鎖国下の対外関係のうち対馬を通しての朝鮮との交流について出題したが、正答率は3割程度であった。また同じく正答率が低かった3では、企業の取り組みの具体例として「条例を制定する」を選ぶ誤答が多かった。論述問題の5では、「訪日外国人旅行者数の世界計に占める割合」ではなく、

「旅行者数」のみで説明している誤答が目立った。資料から必要な情報を正確に読み取るための思考力や判断力が求められる。

「3」は、日本地理に関する問題である。2の(3)、(4)では、昼夜間人口の統計資料と人々の生活とを結びつけて考える力や、近くに大都市が分布しているという地図情報と近郊農業についての知識とを結びつけて説明する力をみた。いずれも中学校における地理的な見方や考え方の基礎を培う学習を想定して出題をした。

「4」は、世界地理に関する問題である。2は、正答率が比較的高かったが、最も多い誤答は、日本の石油産出量を世界で5番目に多い、と判断したものであった。学習指導要領にも「世界的視野から見て、日本はエネルギー資源や鉱物資源に恵まれていないことを理解させる」とあり、理解させておきたいところである。論述問題の3では、「価格」「増加率」という指定語から、与えられた資料のどこに着目したらよいか考え、必要な情報を取り出す技能をみようとしましたが、完全正答率が12.3%と低かった。

「5」は、身近な地域における歴史的事象を取り上げることにより、日本全体の歴史を具体的に理解させるという、中学校で行われている学習方法を踏まえた出題形式とした。論述問題の5は、太閤検地や刀狩といった個々の政策そのものを問うのではなく、それまでの時代との違いや、政治や社会の大きな変化を理解しているかどうかを問う問題である。完全正答率は27.8%と低かった。

「6」は、明治以降の歴史についての問題である。3は、年表中のある時期に当てはまる歴史上のできごとを選ぶ問題で、正答率は55.6%であった。詳細な年代や内容の理解よりも、各事象を歴史の大きな流れや歴史的背景の中で捉えていく学習が今後とも望まれる。論述問題の4は、写真資料を使って歴史を説明する力をみた。完全正答率37.6%に対して中間点を含めた正答率が68.6%であったことから、正確な表現力が求められる。

「7」は、公民的分野のうち、政治や基本的人権を中心とした問題である。3は、議院内閣制のしくみを理解しているかを問う論述問題である。内閣が総辞職することは説明できていても、内閣が衆議院に対する解散権を持っているという視点が欠けている解答が見られた。また、内閣と国会とを混同している誤答もあり、基礎的・基本的な理解が求められる。

「8」は、経済、国際、環境問題について問う問題である。6は、資料から風力発電の特徴を読みとり、京都議定書の内容を踏まえて論述する問題である。現代社会の課題を考察する上で、学んだ知識を活用する力が今後とも求められる。

<平23>

社会学力検査結果集計表

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

| 問 題              |   | 正答率              | 問 題              |                  | 正答率              | 問 題              |                  | 正答率              |                  |                  |
|------------------|---|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 1                | 1 | (1)              | 84.9 %           | 3                | 2                | 1                | 93.2 %           | 6                | 1                | 65.1 %<br>(72.4) |
|                  |   | (2)              | 86.4 %           |                  |                  | (1)              | 62.7 %<br>(73.7) |                  | 2                | 52.9 %<br>(59.9) |
|                  |   | (3)              | 91.5 %           |                  |                  | (2)              | 62.2 %<br>(66.3) |                  | 3                | 55.6 %           |
|                  |   | (4)              | 92.3 %           |                  |                  | (3)              | 76.8 %           |                  | 4                | 37.6 %<br>(68.6) |
|                  | 2 | (1)              | 67.7 %<br>(67.7) | (4)              | 31.5 %<br>(71.3) | 5                | 93.2 %           |                  |                  |                  |
|                  |   | (2)              | 73.3 %<br>(74.4) | 4                | 1                | (1)              | 67.6 %           | 1                | 88.8 %<br>(88.8) |                  |
|                  |   | (3)              | 59.2 %<br>(63.8) |                  |                  | (2)              | 72.5 %           | 2                | 95.2 %           |                  |
|                  |   | (4)              | 71.0%<br>(75.8)  |                  |                  | (3)              | 73.3 %<br>(79.8) | 3                | 37.6 %<br>(38.5) |                  |
| 2                | 1 | 61.0 %<br>(61.1) | 2                | 70.9 %           | 4                | 37.6 %<br>(85.0) |                  |                  |                  |                  |
|                  | 2 | 29.9 %<br>(30.9) | 3                | 12.3 %<br>(48.9) | 7                | 1                | 50.4 %<br>(68.7) |                  |                  |                  |
|                  | 3 | 34.9 %           | 1                | 22.7 %<br>(34.7) |                  | 2                | 80.3 %           |                  |                  |                  |
|                  | 4 | 55.7 %           | 2                | 87.7 %           | 8                | 3                | 51.9 %<br>(62.1) |                  |                  |                  |
|                  | 5 | 11.1 %<br>(33.3) | 5                | 3                |                  | 79.6 %           | 4                | 24.1 %<br>(24.8) |                  |                  |
| 27.8 %<br>(65.4) |   | 4                |                  | 58.6 %<br>(77.6) |                  | 5                | 57.5 %           |                  |                  |                  |
|                  |   |                  | 5                | 27.8 %<br>(65.4) | 6                | 31.3 %<br>(88.1) |                  |                  |                  |                  |

※ ( ) 内は部分正答も含めた割合

# 数 学

## 出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校数学科の指導内容に即し、数学の基礎的な概念や原理・法則の理解力、数学的な表現や処理能力及び事象を数理的に考察する能力を総合的に評価できるよう、数と式、図形、数量関係の3領域から出題した。
- 2 数と式の領域では、数の四則計算や文字式の問題を通して、数学全般にかかわる基本的な技能の習得状況を評価し、また、問題解決のための立式、計算及び説明を記述させることにより、数学的な思考力、表現力及び処理能力を評価できるようにした。
- 3 図形の領域では、図形の計量問題や基本的性質に関する証明問題を通して、直観的な見方・考え方、論理的思考力、論証能力を評価できるようにした。
- 4 数量関係の領域では、関数や場合の数の基礎的な問題を通して、関数的な見方・考え方や確率の考え方が身につけているかを評価できるようにした。
- 5 数と式、図形、数量関係の3領域からなる融合問題を通して、事象の中にひそむ関係や規則性を数理的に考察し、数学的表現や処理の仕方を活用して、問題を解決する能力を評価できるようにした。

## 結果の概要

1 は、中学校数学の各領域における基礎的・基本的な学習内容の理解力及び計算力をみる問題である。平均正答率は79%で、昨年度の85%と比べ平均正答率は下がった。全般的に、基礎的・基本的な学習内容の理解が図られている状況であったが、9、10、12の正答率が60%を割った。基本的な問題であっても、正確な理解が得られていない様子もみられた。今後とも、各領域について一層基本的な知識・理解や処理能力を定着させることが望まれる。

2 は、数と式、数量、図形関係の領域における理解力及び処理能力をみる基本的な問題である。1は確率の問題。全ての組み合わせの中から、条件に合う組み合わせを数え上げる問題で、正確に数えることができていたためか70%の正答率であった。2は作図の問題である。線分ABの垂直二等分線を引くことにより、求める点が作図できるが、そのことが円の中心であることと結びつかなかったのか、正答率は58%であった。3は2次関数の変域から元の2次関数を、方

程式を立てて解く計算問題であり、正答率は42%であった。正確な計算力が求められる。

3 は、思考過程や計算過程を論述させることにより、数学的な処理能力をみる問題である。各問の正答率は1が34.5(58.8)%, 2が36.2(59.8)%であった(( )内は中間点まで含めた場合)。各問ともに、問題文が正しく読み取れていないと思われる答案が見られた。1では平均点を求める式が正しく表現できていなかったり、2では証明問題であるにもかかわらず証明の体裁になっていなかったり、立てた等式を解こうとしたりするなどの解答が目についた。文章の意図を正しく読み取ることも数学的な活動の一つとして大切にしたい。

4 は、図形についての基本的な計量問題及び証明を通して、図形領域における論理的思考力をみる問題である。1(1)は正方形の1つの角が $90^\circ$ であること、直角三角形が関係することを見ることにより、相似であることを証明する問題である。説明が不十分なまま証明を進めている答案が多かった。結論に至るまでの見通しを立て、論理的に表現する態度をより一層育てたい。正答率は4.4%であった。(2)は、三角形の相似の関係をを用い、辺の長さを求められている受検者もいたが、計算ミスと思われる解答も多くみられた。2の計量問題の正答率は、45.8%であった。三平方の定理を2度適用することにより求められる代表的な問題である。知識の活用が有効に働くようになってほしい。

5 は、円周上の2点の動きを通して、関数領域における理解力、思考力をみるとともに、数と式及び数量関係の領域における応用力をみる問題である。1は79.0%の正答率であり、よくできていた。2(1)は中間点を与えられているものを含めても正答率は34.3%, (3)は2.5%の正答率であり、正答率は低かった。無答もかなりみられた。

6 は、2種類の正方形を規則に従って並べていく具体的な操作を通して、数と式、図形、数量関係の3領域における理解力、思考力及び数学的な処理能力をみる問題である。正答率は、1が61.9%とよくできていた。2、3では正答率が低く、無答もかなりみられた。文章を正しく読み取り、規則・操作に従って処理するという数学的な活動を大切にしたい。また、規則性を見つけるといった活動を通して、数学的な見方や考え方に気付かせ、数学的に考える能力やそれを表現する力を育てたい。

<平23>

## 数 学 学 力 検 査 結 果 集 計 表

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

| 問 | 題  | 正答率    | 問   | 題      | 正答率              | 問                | 題 | 正答率    |
|---|----|--------|-----|--------|------------------|------------------|---|--------|
| 1 | 1  | 97.8 % | 2   | 1      | 70.2 %           | 6                | 1 | 61.9 % |
|   | 2  | 91.6 % |     | 2      | 58.0 %<br>(67.3) |                  | 2 | 25.6 % |
|   | 3  | 94.6 % |     | 3      | 42.4 %           |                  | 3 | (1)    |
|   | 4  | 94.2 % | 3   | 1      | 34.5 %<br>(58.8) | (2)              |   | 1.6 %  |
|   | 5  | 89.5 % |     | 2      | 36.2 %<br>(59.8) |                  |   |        |
|   | 6  | 87.3 % | 4   | 1      | (1)              | 4.4 %<br>(60.6)  |   |        |
|   | 7  | 73.8 % |     |        | (2)              | 26.0 %           |   |        |
|   | 8  | 81.0 % | 2   | 45.8 % |                  |                  |   |        |
|   | 9  | 54.3 % | 5   | 1      | 79.0 %           |                  |   |        |
|   | 10 | 59.9 % |     | 2      | (1)              | 18.2 %<br>(34.3) |   |        |
|   | 11 | 78.2 % |     |        | (2)              | 43.6 %           |   |        |
|   | 12 | 48.9 % | (3) | 2.5 %  |                  |                  |   |        |
|   | 13 | 73.4 % |     |        |                  |                  |   |        |
|   | 14 | 81.4 % |     |        |                  |                  |   |        |

※ ( ) 内は部分正答も含めた割合

## 出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校理科の指導内容に即し、第1分野（物理的領域、化学的領域）、第2分野（生物的領域、地学的領域）の2分野（4領域）の学習内容から偏りなく出題した。
- 2 身近な現象や日常生活との関わりの深い内容を取り入れ、自然の事物・現象についての基礎的・基本的な知識・理解及び関心をみるようにした。
- 3 基礎的な観察、実験についての知識・技能をみるようにした。
- 4 観察、実験を通して、自然の事象を科学的に調べ、実証的、論理的に考察する力をみるようにした。
- 5 自然の事象を科学的に調べた結果を、的確に表現する力をみるようにした。

## 結果の概要

1 は、小問集合であり幅広い分野からの出題である。自然の事物・現象、観察・実験に関する基礎的な知識・理解及び関心をみるようにした。選択問題の平均の正答率が74.3%、記述問題で78.2%であった。4の問題は他の問題に比べて正答率が54.1%と低かった。実験結果を具体的に考察することが必要である。6については、用語を正確に理解するよう心がけたい。

2 は、中和に関する考え方を問う問題である。3については完全に解答できた者が少なく、低い正答率であった。アルカリと酸の水溶液を混ぜた場合の液の性質の変化、また塩の取り出し方、「中和」と「中性」の違いを捉えることが大切である。

3 は、光合成に関する実験をもとに考察する問題である。実験からわかることをきちんと整理し、正確に考察することが必要である。また、複数ある実験結果から、考察に必要なものを選び出し、組み合わせを考えていくことも重要である。3のXに当てはまる語句を答える問題での中間点を含めれば、全体の正答率は約7割であった。

4 は、太陽の南中高度変化と季節との関係をみる問題である。正答率は1が約60%、2が中間点も含めると88%であったが、3は中間点を含めても50%を下回った。天体の動きは理解が難しいが、地球儀などのモデルを使って実際に確認させたい。3のような問題は、具体的に南中高度がどのくらい変化するかを考えさせ、理解を深めさせたい。

5 は、ばねはかりを用いておもりを持ち上げる時の仕事や仕事率に関する問題である。1の正答率は65.6%であったが、移行措置の内容である2は中間点を含めても29%、3は39.7%と低いものとなった。2に関しては、仕事の求め方は理解していたが、単位の変換に気づかない受検者が多かったと思われる。3は仕事と仕事率の違いを理解しているかを問う問題であった。エレベータなど日常に使われているもので、体感的に理解することも必要である。

6 は、有性生殖における遺伝の法則性に関する問題である。全て移行措置に含まれる問題であったが、1、2については、60%を超える正答率であった。しかし、3については54.7%、4においては中間点を含めても16.7%と、全問題中で最低であった。まるい種子としわの種子の比率は3:1という短絡的な暗記ではなく、問題文をよく読み遺伝子の組み合わせを考える手順が必要である。遺伝子のモデル等を使い、視覚的に理解することも必要である。

7 は、ボーリング調査の結果より、その地域の地層のでき方を問う問題である。1、2については中間点を含め90%近い正答率であるが、3は34.3%、4では18.3%と低調であった。知識として理解していることから、与えられた条件をもとに考察する力が必要となる。3は、1つしかない凝灰岩がかぎ層、4は図1の高さに合わせて図2の柱状図を移動させると理解しやすい。

8 は、炭酸水素ナトリウムの加熱分解実験に使用する薬品、用具、実験上の注意、実験結果などに関する問題である。実際の実験において注意すべきことは理解できていると思われるが、それを文章で表現することが難しいようだ。日頃の実験から、操作の意味をよく考え、簡潔な文章にまとめることが大切である。4の計算問題は中間点を含めても22.6%と低い。実験・観察に対して定性的に考察するだけでなく、定量的に考察する力を身につけることも大切である。

9 は、電熱線を直列または並列につないだときの、電流、電圧、抵抗の関係を問う問題である。電熱線が一つである1、2の問題は正答率が60.9%、68.9%と高いが、二つ組み合わせた3、4の問題は32.9%、32.7%と低かった。電熱線を直列または並列につないだときの電流の流れ方や電圧のかかり方についてよく理解することが大切である。



(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

| 問 題 |                  | 正 答 率            | 問 題              |                  | 正 答 率            | 問 題              |                  | 正 答 率            |                  |                  |
|-----|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 1   | 1                | 96.9 %           | 4                | 1                | 59.7 %           | 8                | 1                | ①                | 86.9 %<br>(87.1) |                  |
|     | 2                | 72.1 %           |                  | 2                | 47.4 %<br>(88.0) |                  |                  | ②                | 65.6 %<br>(65.6) |                  |
|     | 3                | 73.9 %           |                  | 3                | 48.6 %<br>(48.7) |                  | 2                |                  | 46.0 %<br>(55.3) |                  |
|     | 4                | 54.1 %           | 5                | 1                | 65.6 %           |                  | 3                | a c              | 47.5 %           |                  |
|     | 5                | 80.4 %<br>(87.0) |                  | 2                | 28.9 %<br>(29.0) | b                |                  | 51.3 %<br>(51.3) |                  |                  |
|     | 6                | 68.5 %<br>(68.8) |                  | 3                | 39.7 %           | 4                |                  | 21.9 %<br>(22.6) |                  |                  |
|     | 7                | 90.5 %<br>(92.3) | 6                | 1                | 62.8 %<br>(69.3) | 9                | 1                |                  | 60.9 %           |                  |
|     | 8                | 73.5 %<br>(75.2) |                  | 2                | ①                |                  | 70.4 %<br>(70.5) | 2                |                  | 68.9 %<br>(68.9) |
| 2   | 1                | 実1               |                  |                  | 21.0 %<br>(21.5) |                  | ②                | 88.3 %<br>(88.5) | 3                |                  |
|     |                  | 実2               |                  | 40.7 %<br>(41.7) | 3                |                  | 54.7 %           | 4                |                  | 32.7 %           |
|     | 2                | 43.2 %<br>(51.0) | 4                |                  | 16.5 %<br>(16.7) |                  |                  |                  |                  |                  |
| 3   | 42.3 %<br>(57.0) | 7                | 1                |                  | 85.4 %<br>(88.2) |                  |                  |                  |                  |                  |
| 3   | 1                |                  | 68.5 %           | 2                |                  | 67.9 %<br>(86.9) |                  |                  |                  |                  |
|     | 2                |                  | 65.3 %<br>(66.3) | 3                |                  | 34.1 %<br>(34.3) |                  |                  |                  |                  |
|     | 3                | X                | 44.8 %<br>(67.1) | 4                |                  | 18.3 %           |                  |                  |                  |                  |
| Y   |                  | 73.4 %           |                  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |

※ ( ) 内は部分正答も含めた割合

### 出題の方針

- 1 問題の内容が中学校学習指導要領の趣旨に沿うものとし、聞く、話す、読む、書くことの4領域にわたって出題するようにつとめた。
- 2 中学校学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容について、多く出題するようにした。
- 3 聞く力については、話されることの内容を聞き取る基礎的な力を主としてみるようにした。
- 4 表現する力については、与えられた場面やテーマに沿って英語でコミュニケーションを図る力をみるようにした。
- 5 読む力については、比較的長い文を読み、書かれていることの概要や要点を文脈に沿って読み取る力をみるようにした。

### 結果の概要

1 は、身近な事柄を素材にして、音声によるコミュニケーション活動を扱った聞き方の問題で、3問構成とした。問題全体平均正答率は、61.2%であった。1は相手の発話に対して適切に対応する力をみるものである。4問の平均正答率は83.0%であった。2は英語の対話を聞いて、状況を把握し内容を理解する力をみる問題であり、各小問ごとに設問2つに答える形式である。正答率の平均は48.7%であり、各小問の平均正答率は(1)が42.8%、(2)が41.8%、(3)が61.6%であった。3は聞き取りの内容を相互に関連づけて理解する力をみる問題であり、5問の平均正答率は58.9%であった。話された英語を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取る力の育成が望まれる。必要とする情報を聞き分けることも必要である。今後もコミュニケーション能力を育成するという観点から、聞く力を高めていくことは大切である。

2 は、基礎的・基本的な事項についての理解度をみる問題である。動詞の時制や基礎的な応答などを素材にしている。9問の平均正答率は62.5%であり、(2)の33.9%、(5)の47.1%を除き、基礎的・基本的な事項についての定着がうかがえた。今後とも、英語力の支えとなる基礎的な文法事項については、確実な定

着を心がけてほしい。

3 は、対話の流れを把握しながら要点を捉える力をみる問題で、異文化理解をテーマに出題している。今年度は日本とスペインの新年の習慣を題材にした。3問の平均正答率は49.2%であった。3の指定された文字で始まる英語を書く問題は、正答率46.4%であった。1、2の文脈から概要を捉えて解答する問題は、それぞれ正答率78.9%、25.0%であった。

4 は、書くことによって表現する力をみる問題である。言語の実際の使用場面により近い題材及び問題設定となるようにしている。1は朝の読書についてのお知らせを英語で表現する問題である。小問2問の完全正答率の平均は27.1%であり、中間点を含めると69.6%であった。2は絵や文脈から判断して、適切な英語で表現する力をみる問題である。小問2問の完全正答率の平均は24.4%であり、中間点を含めると51.6%であった。具体的な場面や状況を把握し、適切な表現を自ら考え書くことが求められる。3は、与えられたテーマについて表現する力をみる問題である。今年度は、外国から来た中学生が自分の家に滞在したときどのようなことをしてあげたいかとその理由をテーマとした。完全正答率は10.1%であったが、中間点を含めると77.9%であった。今後も、書くことについては、自分の気持ちや考えを相手にわかるように伝える力を育成するとともに、言語材料についての理解の定着を確実に図ることによって、英文の構成力・表現力を身に付けることが重要である。

5 は、物語文による読解問題であり、文脈に沿って内容を理解する力、概要や要点を捉える力をみるものである。今年度は、転校生との交流を通して、前向きに取り組むことの大切さに気づいた中学生の心の成長を描いた話を題材にした。4問の平均正答率は40.2%であった。1は、文中から、どんな絵であるかを捉え、日本語で具体的に説明する問題である。英文の中から適切な部分を見つけて、内容を説明できる力を高めることが大切である。

6 は、説明文による読解問題である。今年度は睡眠をテーマにした。4問の平均正答率は28.4%で、中間点を含めると43.9%であった。まとまった英文を読んで、要点を捉え、概要をまとめる力を身に付けることが大切である。

<平23>

英語学力検査結果集計表

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

| 問 |     | 題   | 正答率              | 問                | 題      | 正答率    | 問                | 題 | 正答率              |                  |
|---|-----|-----|------------------|------------------|--------|--------|------------------|---|------------------|------------------|
| 1 | 1   | (1) | 89.2 %           | 2                | 1      | 67.9 % | 4                | 1 | (1)              | 33.1 %<br>(66.0) |
|   |     | (2) | 64.0 %           |                  | 2      | 33.9 % |                  |   | (2)              | 21.1 %<br>(36.6) |
|   |     | (3) | 92.8 %           |                  | 3      | 87.2 % |                  | 2 | (1)              | 26.6 %<br>(57.4) |
|   |     | (4) | 85.9 %           |                  | 4      | 62.9 % |                  |   | (2)              | 22.2 %<br>(45.8) |
|   | 2   | (1) | ①                |                  | 9.8 %  | 5      | 47.1 %           | 5 | 3                | 10.1 %<br>(77.9) |
|   |     |     | ②                |                  | 75.8 % | 6      | 88.6 %           |   | 1                | 50.4 %<br>(78.0) |
|   |     | (2) | ①                |                  | 29.5 % | 7      | 83.2 %           |   | 2                | 51.4 %<br>(55.7) |
|   |     |     | ②                |                  | 54.0 % | 8      | 49.8 %           |   | 3                | 9.6 %<br>(40.1)  |
|   |     | (3) | ①                |                  | 58.3 % | 9      | 41.7 %           | 4 | 49.2 %           |                  |
|   |     |     | ②                |                  | 64.8 % | 1      | 78.9 %           | 1 | 28.2 %<br>(59.1) |                  |
|   |     | 3   | (1)              | 97.4 %<br>(97.7) | 3      | 2      | 25.0 %<br>(86.2) | 6 | 2                | 34.6 %<br>(48.4) |
|   |     |     | (2)              | 97.6 %<br>(98.3) |        | 3      | ①                |   | 69.6 %<br>(71.0) | 3                |
|   | (3) |     | 39.8 %<br>(44.2) | ②                |        |        | 23.2 %<br>(23.9) |   | 4                | 33.5 %           |
|   | (4) |     | 18.4 %<br>(22.2) |                  |        |        |                  |   |                  |                  |
|   | (5) |     | 41.3 %<br>(57.6) |                  |        |        |                  |   |                  |                  |

※ ( ) 内は部分正答も含めた割合